

平成7年10月24日第3種郵便物認可 2011年3月10日発行（毎月1回10日発行）・通巻250号

En-ichi

[月刊]

2011
3
no.250

魂の教育を実践する

フォーラム講演

教師が誇りと自信持てる教育現場を

参議院議員 義家弘介



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

先生が誇りと自信と確信を持って教壇に立ち、次の世代を育てていく教育現場にしていくために、法改正を含めて違法な活動は絶対許さないという体制をつくっていきたいと思います。

教師が誇りと自信持てる教育現場を 義家弘介…9

家庭生活プログラムの…例えば十代妊娠に関する避妊具の問題…では、これはカトリックとして認めることはできない問題ですよと伝えます。宗教によって問題を正しく理解できる場合もあるからです。

フィジーの「心を育てる」教育プログラム トウポウ・ナワル…11

将棋は「負けました」と言うところから始まるとも言えます。…その上で「感想戦」で、ゲームを巻き戻して今戦った相手と二人で振り返る。…負けを認めて前に進む勇気を持つことでもあるのです。

将棋の「三つの礼」が子供たちを変える 安次嶺隆幸…14

(現在のヒューマニズムは)現代の巧妙なマルクシズムとかマス・コミの暴力に押し流される。…たんなる知識ではなく、行動への可能性を含む思想としてのヒューマニズムが成長しなければならない。

往時茫々—ヒューマニズムの限界 河端春雄…19

-
- 3 巻頭言
宗教的ミッションを持った国際協力人材 長崎大学名誉教授 溝田 勉
-
- 4 教育再生への課題と展望
講演「教育正常化に向けた国政での戦い」
教師が誇りと自信持てる教育現場を 参議院議員 義家弘介
-
- 10 ワールドアフェアーズ
フィジーの「心を育てる」教育プログラム 高校教諭 トウポウ・ナワル
-
- 12 情報ファイル
晩婚・非婚化の流れ、歯止めかからず
非行防止に「最大の役割は家庭」76%
-
- 14 私の教育実践
将棋の「三つの礼」が子供たちを変える 小学校教諭 安次嶺隆幸
-
- 17 子育ては絵本で大丈夫
「にじいろのさかな」 劇団天童／天童芸術学校代表 浜島代志子
-
- 18 発言
往時茫々—ヒューマニズムの限界 哲学者 河端春雄
-
- 20 病を克服した偉人たち〈5〉チャーホフ
肺結核を隠し続けた大劇作家 ジャーナリスト 池永達夫
-
- 22 Book Review / 読者の声
-
- 24 歴史と伝統の探訪
井口喜源治、私塾で理想の人格教育 / 長野
-

巻頭言



長崎大学名誉教授
溝田 勉

国や地方の未来を考えると、いつの時代も人材の育成に思いが及びます。

我が国社会のシステムは、官僚制による中央集権が徹底して、地方分権の実現にはあと四十年はかかる見込みです。東西文化が錯綜し、混乱続く風潮下で、社会保障がどう担保され人間が育つか甚だ心もとない限りです。

加えて、情報化の加速が正常な価値観の醸成を妨げます。長引く経済不況は、成人の希望や計画も砕き、年間三万人を越える自殺に繋がるのです。

人類が古来より「神」と崇める大自然の恵みを、生存と生活に生かす人間的智慧が求められています。新世紀のグローバル世界で「人間の安全保障」を実現できるリーダー群を期待されている由縁です。

こうした状況下で一人ひとりが自己拡大を進めるには、先ずもって心身の健康を培う事が必須です。自身の場合は、前世紀七〇年代の学生紛争時に、反体制や国家転覆を目指した安田講堂攻防戦に若き心血が注がれた頃でした。幸いにも並行して心と身体を統一させて使う事により潜在能力を高める修練を、中村天風師から六年間直接受けました。

第一に観念要素更改による心のお蔵の大掃除、第二は、言葉や行動を積極化する自己暗示の強

宗教的ミッションを持った国際協力人材

化です。第三には、尻肩腹三位一体的に弛緩や収縮させる事による自律神経系統の整頓と訓練です。この三方法を日常的に習慣化していく事で、人生目標や計画が実現します。真に思考が物事を決定するのです。

この体験を礎に自身、以下の四領域で各二十余年にわたり稀有な務めを担いました。即ち、NGO社会教育活動、次に中央政府官僚の一員、さらには国連三機関の職員を経て、大学教員や研究者としての役目です。

こうしたプロフェッショナルな役目に活躍できたからこそ、個人の総合的人間力を高める事が、社会変革への原動力であると納得できます。単なる科学的調査分析や効率効果の測定に勝るものが充分あります。心身統一した状態で豊かな教養や指導力が身に付き、宗教的ミッションを持つて勇往邁進すれば、国際協力の場裡でも立派に活躍できる人材となり得るのです。

長崎では、幕末から明治にかけて、新しい国の建設に向け、多くの人材を育てました。現在では世界に通用する人「財」を目指し、スピリットとノウハウを鍛えています。

あらゆる事柄に興味を抱き、楽観的かつ前向きな姿勢で、可能な限り現場重視の「人間の安全保障」プログラムをいかに展開していくかが、グローバル社会から求められているのです。

講演「教育正常化に向けた国政での戦い」

教師が誇りと自信持てる 教育現場つくるために

教育再生のためには、明確な責任体制を確立しなければならない。そのために様々な法案の作成や見直しに着手する。

教育に救われた者の責任として

私は教育によって救ってもらった人間です。そのことを片時も忘れたことはありません。自分にしてあげたぬくもりをこれから出会うであろうすべての子供たちにしてやり伝えていこう、そういう思いで教師という道を歩いてきました。

現在、国会議員という立場ですが、高校で週二コマ、大学でゼミ三コマと通常授業一コマ教えるために教壇に立っています（十六歳で里子に出され、その後、やり直しを賭けて単身北海道に渡り、高校を卒業。明治学院大学法学部法律学在学中、オートバイの交通事故で

意識不明の重体となる。その際、駆けつけてくれた高校時代の担任の先生の励ましに感動し、教師になることを決意。卒業後、母校である私立・北星学園余市高等学校に社会科教師として赴任）。

現場の教師である私がなぜ国政の場に行ったのかを、お伝えしたいと思います。

まず教育を不正常にさせている原因は何でしょうか。教育は「責任」をあいまいにした時点で崩壊します。どんなに教育の無責任体制を嘆いても、教育の仕組みを変えない限り、変わりません。明確な責任体制を確立し、教育再生を成し遂げていかなければならないという思いで、立法府に身を置きながらさまざまな法案作成や見直



義家弘介
よしいえ・ひろゆき
参議院議員

1971年長野県生まれ。明治学院大学法学部卒。卒業後、母校である私立・北星学園余市高等学校に社会科教師として赴任。その際の生徒指導がTBSのドキュメント番組「ヤンキー母校に帰る」(2005年)として放送され大反響となり、ドラマ化、映画化される。著書も多数出版。その教育論が、崩壊が叫ばれて久しい教育界に一石を投じる。横浜市教育委員、安倍内閣・内閣官房教育再生会議担当室長歴任後、2007年より参議院議員。自民党シャドーキャビネット文部科学副大臣、参議院国会対策副委員長および議院運営委員会理事。



責任をあいまいにしたら、簡単に教育は崩壊する。教育の責任体制確立が急がれる

しに着手しています。

これまで教育が議論されるとき、イデオロギーの議論になりがちでした。そして票や金にならない教育の問題は、いつも後回しにされてきました。五十五年体制のなか、表面上は自民党と社会党が敵対しながら、机の下では握手してきたというのが実態です。問題をあいまいにしてきた結果、その膿が今

一気に噴出しているといえます。

責任を押し付ける体制になっっている

責任をあいまいにしたら、簡単に教育は崩壊する。これについて分かりやすい話をご紹介します。

私が大学の先生に教育の責任を問うたとき、「大学生のレベルが落ち、高校の復習から始めないといけなくなった。高校を何とかしてください」と訴えられました。次に高校の先生に言うと、「入試が多様化して高校入学時点で全然レベルに達していない。中学の先生にちゃんとやってください」と返されます。

中学の先生は「入学時点でどの学校で、どの先生に習ったかで学力格差がすごい。能力別クラス編成をしようとする、人権派が反対するので下のレベルに合わせるしかない」。小学校では「入学時点で、親の意識の違いで、学力やしつけ、学ぶ姿勢の格差がものすごくいんです。幼稚園、保育園の先生

がすっかりしてもらわないといけない」。幼稚園・保育園に言えば、「親の意識が低くて、親が変わってくれないと難しい」。親に言えば、「親学といって、国家が家庭に介入するのはとんでもない」と抗議をしてきます。全部が責任を押し付ける体制になっっている。これが一番の問題です。

ゆとり教育の問題もそうです。三割削減したら学力が落ちるのは当然ですが、誰も責任をとろうとしません。都道府県教委もそうです。教育委員会がしっかりと地域の教育に責任をもってもらわないと困りますと言うと、教育委員会は文部科学省の指示でやっているだけと責任を押し付ける。市町村教委は県教委に、校長は管轄の市町村教委に押し付け、全部が全部責任を押し付けあっています。結果、押し付けられた責任のツケを子供が負うことになるのです。

高校無償化の問題点

この不条理を正し、責任体制を

教育基本法の関係法令改正が受け継がれないままになっている

確立していくために安倍内閣で教育基本法を改正しました。ところが、責任体制を確立する関係法令を改正する作業が次の福田内閣に受け継がれないまま、政権交代で無責任な教育施策、法律、予算付けがなされることになってしまいました。

その一つが高校無償化です。私は、義務教育ではない高校教育に月一万円負担するのは親の責任だと思います。ですから責任を持つ親の同意なくして、子供が勝手に退学はできないはずで、しかし無償化したらどうなるでしょう。子供がもし退学を希望したら、国が子供個人に与えた高校の学費無償という権利を子供が放棄するだけになってしまいます。

また、高校無償化は、やり直そうとする生徒に不利になる制度です。高校中退した後、もう一度高校に入ってやり直そうという生徒は無償の対象から外される場合も出てくるからです。しかも子ども手当てと同じく、所得制限がないことは問題です。

責任体制の障害になっ ている日教組

教育の責任体制を確立する上で、一番の障害になっているのは日教組です。しかし、イデオロギー論争だけをして意味がありません。ですから自民党・文部科学部会長の立場で、現場からあがってきた証拠資料を提示しながら、国会論戦に臨むことを決意しました。

かつて横浜市教育委員会に招かれたとき、扶桑社の『新しい歴史教科書』採択を巡って、横浜の日教組（浜教組）と闘ったことがあります。

そもそも、日本人が学ぶ日本の歴史は日本史ではなく、国史であるはずで、国史ですから、国史起りから始まるのが常識です。ところが、日本史の教科書には国の成り立ちの歴史が書かれていない。さらに神奈川県では日本史は必修になりましたが、一般の高校では必修科目になっていませんから、学ばなくても卒業できます。こんな

国は日本だけです。

民主的に採択された『新しい歴史教科書』を阻止するために浜教組は何をしたかと言えば、「学校ポスト」、つまり学校から保護者に出す郵便物に対して予算立てされたポストを利用して、横浜市中の全教員に『新しい歴史教科書』を教える時の指導マニュアルを送りました。中身は偏向教育です。例えば、「二宮金次郎は政府によって利用され、戦争に使われた」「忠臣蔵は当時の報復事件にも値しない無差別殺人である」など、きわめて偏向した内容です。民主的に採択された教科書を使わないで、別の教科書会社の資料、内容で教えるよう指導するという、非民主的なことを堂々と行いました。

勤務時間中に 違法な組合活動

また、教育公務員特例法では政治活動は禁止されていますが、昨年（二〇〇九年）夏の選挙では横浜出身の民主党日教組の候補者を



日教組の違法な組合活動、強制カンパ、校長交渉の実態

応援する意見書を学校内で回して分会に提出させていました。勤務時間中の組合活動は職務専任義務違反です。

北海道では北教組の裏金問題で本部に家宅捜査が入った後、選挙公示中に政治活動を堂々とやっています。しかも学校名簿を悪用し、知人、友人、教え子への親書や電話での支持の確認をお願いしていたのです。勤務時間中の政治活動は違法だという認識が非組合員も組合員も麻痺しているのが教育現

場の実態です。

さらに「校長交渉」では、組合が新任校長に約束させる要求事項があります。新任校長の最初の仕事は入学式です。要求をのまなければ、入学式に協力しない、有給をとってポイコットすると突きつけてきます。「教職員の意見を尊重し、民主的な学校運営、勤務条件に関わることは全部交渉事項と考える」など、こと細かい事項を約束させて、校長をがんじがらめにして動けなくするのです。まともな校長は潰されます。校長や教頭になりたくないという先生が続出するわけです。

日の丸君が代を排除するためのマニュアル資料には、「式の時に一斉退出する」とおわせる。生徒に日の丸君が代が問題であることを教える。強行された場合は、ステージで日の丸を隠すための装飾を行う。それでも強行されたら、本務以外の雑務は拒否する。部活動以外の超過勤務は拒否する。分会代表は朝の会議で校長に抗議の意思表示を一定期間行う。研究指定校

は受けない」など。自分たちの独善的考え方を押し付け、子供のことはまったく考えていないのです。

一昨年(二〇〇八年)、日教組はあしなが育英会に寄付する目的で先生たちから「子ども救済カンパ」を行いました。寄付金一億八千万円のうち、八千万円があしなが育英会、一億円は連合に寄付です。これは任意のカンパではなく、強制カンパです。北海道では千五百円、日教組の指示では一人五百円が口座から天引きです。組織的な強制偽善カンパは許されることではありません。

教育の土台に 道徳心の涵養を

教師の責任、大人の責任、年長者の責任として、まず正しき正義や道徳を説くことだと思います。価値観の押し付けはよくないと、日教組は道徳の授業ポイコット運動を続けています。しかし、一人ひとりの教員の思想信条がどうであれ、職責として採択された教科書

消えない過去を背負っても歩いていける人間に成長させるのが教育の責任

で教える、法に基づいて式典を守る、校長交渉で越権行為を犯さない、これは当然のことです。

さらにジェンダーフリー、過激な性教育が密室の教育現場で横行しています。大阪・堺では小学生低学年に教師が自分の妻の出産シーンをノーカットで見せたという事例があります。一、二年の性教育教材では、ペニスやワギナという言葉を使って、性行為をあらかじめ説明しています。

横浜市のある小学校ではリアルな性交人形を使って低学年に授業をしていました。保護者に聞き取り調査をすると、ほとんどの親はその授業のことを知っていました。自分が何か言ったら子供が大変になるのではないかと不安で、言えなかった。しかし、性教育の副読本や副教材は保護者か内部の先生が問題視し、表に出してくれない限り、チェックできません。

性教育に必要なのは性の知識ではなく、道徳観です。道徳なき性教育は子供たちにセックスの方法を教えているだけです。道徳なき

経済教育は儲かれれば何をしてもいいという大人になることを助長しているだけです。また道徳なき情報教育は有害サイトにアクセスするにはどうしたらいいかを教えているだけです。すべての教育の土台に、人としての在り様、道徳心を涵養していかなければならぬのに、知識だけを教えたなら性が乱れるのは自明です。

真っ赤な顔をして叱ってくれた先生

また彼らは、児童中心主義を掲げ、子供の目線だけを強調する教壇撤廃を推し進めています。しかし集団授業では教師の目線で授業しなければ、授業の責任放棄になってしまう。教育というのは教師の目線、大人の目線、子供よりもっと低いところからの目線、前後左右からあらゆる目線を注ぐことで成り立つのです。唯一子供の目線だけが強調されるのは責任放棄です。

私が不良少年だったとき、「気持

ちはわかるよ、昨日までのことはみんないいんだよ」と慰めてくれた先生はいました。そのように認めてやるのは、子供には慰めにはなっても、本当の救いにはなりません。私が何もかも失って独りぼっちになったとき、「いいよ」と言っていた先生は周りからいなくなりました。私の周りにいてくれたのは「おまえ、そんなことをしたらだめだ」と真っ赤な顔をして叱ってくれた先生だけでした。

私はヤンキー先生ですから、「あいつは昔悪かつたくせに、何を偉そうに道徳を説く。おまえにだけは道徳を説かれたくない」と陰口を叩かれます。つまり昨日までやってきたことがよくないことであれば、それを背負って今日を生き抜かないといけないわけです。消えない過去を背負ってもなお、歩いていける人間に成長させるのが教育の責任なのです。

それが自分を救ってくれた教育の姿だと思うからこそ、おかしいことはおかしいと、どんなに反抗されても主張しなければならぬ。

まともな先生がまともなことを言える教育現場に正していく

正しいものは何としても守ることを説いていかなければならないと思っています。

地域で頑張る先生 応援する気運を

私は日教組を批判するので教員の敵だと思われていますが、まったく逆です。先生方に心から感謝している者です。まともな先生がまともなことを言える教育現場に正していかなければ、この国の子供たちが正しいことを言えるわけがありません。

教育はひとりではできませんか

ら、教師集団の大切さは当然です。私がいうのはまともな教師集団です。子供たちをどう育てるかという目的を共有した教師集団の力の合わせ方で教育効果は違うと思います。まともな先生がしっかりとネットワークを組める環境が大切だと思えます。

休日返上で生徒の部活のために頑張っている先生もいます。子供たちと必死に向き合って汗をかいている先生が誇りと自信と確信を持って教壇に立ち、次の世代を育ていける教育現場にしていかなければなりません。そのために、法改正を含めて違法な活動は絶対許

さないという体制をつくっていきたいと思います。自民党が政権に復帰したら、今準備中の法案を提出する考えです。教育正常化が果たされた後には、小学校高学年は教科担任制にして教師の数を増やしていいと思っています。あるいは教員の給与を全額国庫負担にすることも検討していいと思います。

皆様には、それぞれの地域で頑張っている先生の応援団になって、立派な先生に育て上げていくような気運を国民運動として起こしていただきたいと願っています。■

圓一教育フォーラム(二〇一〇年十二月十八日)講演より

これからは「個性重視」から「人格重視」の教育へ

人格教育のすすめ

アメリカ・教育改革の新しい潮流

人格教育に関する文献で、これほど深遠で包括的な書物は存在しない。教師や親、青少年問題担当者あるいは政策立案者など、人格教育に携わる人々にはもちろん、より良い人生を築きたいと願っているすべての人々に、価値ある本となることを信じてやまない。

(まえがき)より / トニー・デイビン 米国 人格教育の第一人者

Cultivating Heart and Character

トニー・デイビン 他編

元兵庫教育大学学長

上寺久雄 監訳

主な内容

- Part I 高まる人格教育への期待
- Part II 家庭は「愛の学校」
- Part III 青少年が直面する性の脅威

四六版上製・五三三頁 定価二〇〇〇円(税別)

発行/コスモトゥーワン

東京都豊島区西池袋2-39-6-8F

TEL 03 (3988) 3911/FAX 03 (3988) 7062

http://www.cos21.com

日本に暮らしてみてもイメージが変わった

私はフィジーにあるローマカトリック教会系のマリスタ・ブラザーズ高校で社会科学、地理、宗教などを教えています。

夫は日本の自動車メーカーのラグビー選手として一九九一年に来日し、現在は栃木県の白鷗大学でラグビー部のコーチをしています。夫は今年でちょうど日本在住二十年になります。

——日本の印象は？

私は以前、東京都日野市に六年間住んだことがあります。初めて日本に来たときは子供が三人いました（今は五人です）。長女が小学四年生、長男が一年生、次女は三カ月でした。夫がすでに日本に住んでいましたから、外国人が日本で暮らすことがどれほど難しいかを教えてくれました。それでも、思い切って挑戦してみようと移り住みました。

第二次大戦中、日本はイギリス

ワールド・アフェアーズ

南太平洋の島国フィジーの「心を育てる」教育プログラム



フィジー 高校教諭
トゥポウ・ナワル
Tupou Nawalu

日本の中学生と絵画を通じた交流をしているフィジーの高校教師、トゥポウ・ナワルさんに、フィジーの学校で行っている「家庭生活プログラム」や日本社会の印象について聞いた。

領だったフィジーの敵国でしたから、私の幼いころの日本に対する印象は残念ながらも戦つてい「悪者」のイメージでした。

実際に日本に来てみると、学校に英語を話せる先生が一人もいなかったたのでコミュニケーションを

とるのに苦労しました。それでも、親切な友人が探してくれた通訳が学校で子供を助けてくれました。お母さんたちも子供のことでよく助けてくれました。

そうしているうちに、昔の「悪者」のイメージはすっかりなくなっ

ていました。日本人はとても温かく、愛情があり、親切な人々だと分かったのです。私は日本で経験したことをフィジーの子供たちに伝えていきます。

日本の中学生と絵画の交流

——大阪の中学校との交流について紹介して下さい。

日本の友人から、大阪のある中学校が生徒たちの描いた絵をフィジーに送りたいと希望していると知らされました。そこでその絵をフィジーに持って帰り、私が勤めている学校の子供たちに見せてあげました。その後、フィジーの生徒たちにも同じように絵を描いて日本に送ってほしいと要請がありました。そのようにして交流が始まりました。

絵のテーマは「環境との平和」です。日本の生徒の絵はリサイクルについて描いたものが多くありました。私は自分の学校の生徒たちに「私たちがフィジーやオセアニア

ア、南太平洋で暮らす人たちが、どのように環境との平和を保っているかを描いて日本の友達に教えてあげましょう」と話しました。彼らは森林伐採や大気汚染について描きましたが、私たち教師も日本とフィジーの生徒たちの絵を見てとても刺激を受けました。今後ともこうした交流は続けたいと思っています。

——フィジーは教育水準がとても高いと聞いています。

もちろん日本のような先進国とは比べられません。南太平洋の国の中では高いと言えると思います。未就学児教育から大学教育に至る教育システムが確立していますし、農村地域で学校に通っていない青少年の教育も行っています。

「家庭生活プログラム」の考え方

——家庭教育について特別なプログラムはありますか？

通常の科目とは別に「宗教プログラム」や昨年度から始まった「家



この授業の学校での授業。壁に貼られているのは日本の中学生から送られた絵。「地球を大切に」などと日本語で書かれている

庭生活プログラム」などがあります。家庭生活プログラムは、特に十代の若者を対象にしたものです。

この年齢の子供たちがさまざまな問題を抱えているからです。宗教プログラムは重要なトピックですが、カトリックの信仰だけでなく、他人を思いやり、愛することの大切さを教えています。フィジーでは全人的な教育が重要視されています。つまり、知識教育だけでなく、心を育てるということです。

それは彼ら自身のことを学ぶ科目だからです。

——家庭生活プログラムの基本には、宗教的な考え方がありますか？

必ずしもそういうわけではありません。ただカトリック信者としてお話ししますが、家庭生活プログラムの中にはカトリック教会にとつてあまり好ましくないテーマも含まれていました。例えば十代妊娠に関する避妊具の問題です。た

薬物問題や異性問題なども家庭生活プログラムの中で扱っています。私も今年度から担当していますが、とても生徒の関心の高い科目になっています。家庭生活プログラムは必須科目で、高校一年から週一回行います。生徒たちはこの時間をとても楽しみにしています。

だし、私は生徒に「あれをしては駄目、これをしては駄目」とは言いません。時には生徒自身が判断しなければならぬ場合があることも確かです。そうしたケースでは、これはカトリックとして認めることはできない問題ですと伝えられます。宗教によって問題を正しく理解できる場合もあるからです。もちろん家庭生活プログラムだけではなく、英語や数学の科目の中でも人格教育が行われるべきだと思います。他人への思いやりや愛情は全人格的に育てるべきです。その意味ではすべての科目が人格教育だと言えます。

教員を育てる大学でも全人的教育が重視されています。私にとつて教師は司祭や修道女と同じ「聖職」です。知識を教えるだけでなく、心を育てることが何より大切だということも学びました。

生徒には「人はあなたの知識ではなく、心に対して尊敬心を抱くのですよ」と教えています。知識に心が伴ってこそ、強い人間になれると信じています。■

第6回世帯動態調査

晩婚・非婚化の流れ、歯止めがからず

30代前半女性の3人に1人は未婚

晩婚・非婚化がすすみ、男性の六人に一人は結婚しないで独身のまま生涯を終える。国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、二〇〇五年の生涯未婚率（五十歳時点の未婚率）は男性一五・七％、女性七・三％。とくに男性では九〇年代のバブル経済破綻以降、雇用環境の悪化が影響し、生涯未婚率が急上昇した。

女性の高学歴化、社会進出が進み、子育てより仕事を優先する傾向が

みえる。これが未婚率の上昇を生んでいる。このままいくと、二〇

昨年十二月、同研究所が発表した「第六回世帯動態調査」では、男女ともに多くの年齢で未婚割合が五年前の前回調査を上回り、晩婚・非婚化の趨勢が明らかになった。とくに結婚適齢年代の三十代前半女性では、十五年前（第三回調査）と比べると、約二倍の三〇・二％まで未婚率が上昇した。三十代前半女性の三人に一人、三十代後半女性の六人に一人は結婚していない。

年齢別に見た未婚の割合



国立社会保障・人口問題研究所「第6回世帯動態調査（2009年社会保障・人口問題基本調査）」

三〇年には男性の生涯未婚率は三割、女性は二割を超えと言われている。

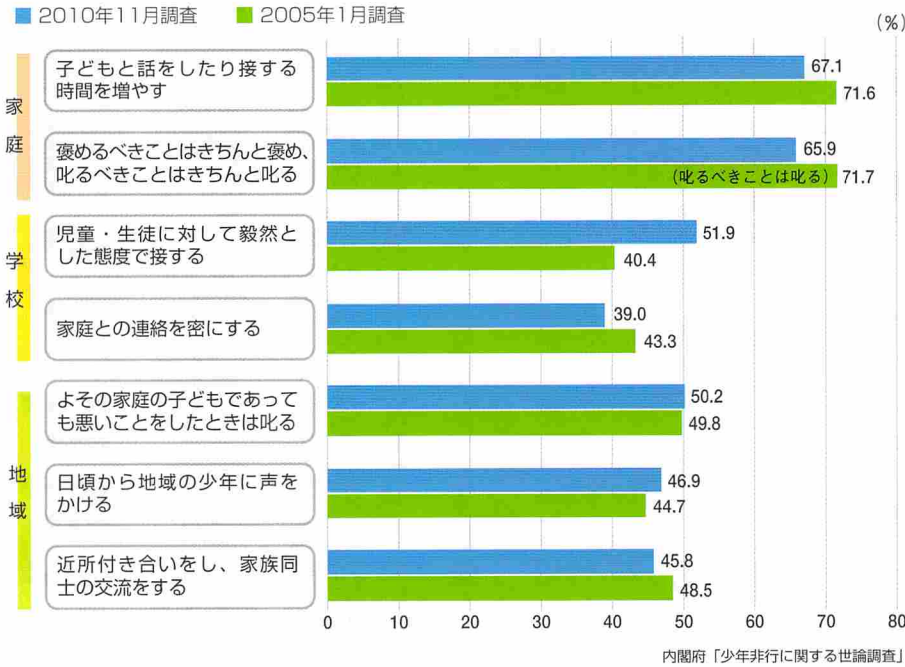
こうした晩婚・非婚化が出生率低迷の大きな要因となっている。「人口動態統計」によると、日本の合計特殊出生率（一人の女性が生涯生む子供の数）は一九七五年に二・〇を割り込み、〇五年には過去最低一・二六まで落ち込んだ。その後出生率はやや回復したものの、一・三七で横ばい状態だ。

一方、欧米の先進諸国の出生率を見ると、東アジア圏の日本、韓国、シンガポールと比べると高水準にある。フランスや北欧は手厚い子育て支援で出生率を回復させ、アメリカはヒスパニック系の増加や高い若年出生率により二・〇九（〇八年）という高い出生率を維持している。

北欧、アメリカと社会的土壌が異なる日本はいずれの道も取りにくい。晩婚・非婚化の流れをくいとめるには、家族主義に根ざした、日本独自の子育て支援策を打ち出す必要がある。

少年非行防止に必要と思われる対応

「家庭」「学校」「地域」の各々で上位だった回答（複数回答）



「少年非行」世論調査 非行防止、「最大の役割は家庭」76% 「毅然とした態度」「地域の絆」必要の声も

少年非行の防止には「家庭」が最も大きな役割を担う。成人の四人に三人はそう考えていることが、内閣府が二月一日に発表した「少年非行に関する調査」で分かった。また、家庭で子供と接する時間を増やすことや、家庭や学校に毅然とした態度を求める意見も目立った。

調査は昨年十一月、全国二十歳以上の男女三千人を対象に行われた（有効回収率六二・九％）。

どのような少年が非行を起していると思うかについては、「保護者が教育やしつけに無関心」（五五・九％）など、多くの人が家庭の影響が大きいと考えている。

社会環境の問題では、携帯電話やインターネットの普及により「簡単に見知らぬ者と出会える環境にある」（六三・四％）、「暴力や性、

自殺に関する情報を手に入れられる」（四七・三％）ことを危惧する意見が多い。また、社会で「他人の子どもに無関心、地域の絆が希薄化している」（五七・四％）との回答も多かった。

少年非行の防止に特に大きな役割を果たすのは「家庭」という回答が七六・四％に達し、次いで「地域社会」が二・九％、「学校」が三・七％だった。子育ての基本が家庭にあると、大多数の国民が認識していることを改めて示した。

具体的対応としては、家庭で「子どもと話をしたり接する時間を増やす」（六七・一％）、「ほめるべきことはきちんとほめ、叱るべきことはきちんと叱る」（六五・九％）必要があると考える人が多い。学校に対しては「児童・生徒に対して毅然とした態度で接する」（五一・九％）ことを求め、地域社会では「よその家庭の子どもであっても悪いことをしたときは叱る」（五〇・二％）、「日頃から地域の少年に声を掛ける」（四六・九％）など、地域の絆を求める回答が目立った。

将棋の「三つの礼」が 子供たちを変ええる

子供たちの間で将棋がブームになっている。「三つの礼」や「相手のことを察する心」、そして「自分の気持ちを折りたたむこと」。将棋にはそんな大切なものが込められている。

なぜ今、教育に

「将棋」なのか

将棋は今、子供たちの間で大ブームになっています。JTが毎年開催している将棋大会には、昨年、東京大会（十一月二十三日、東京体育館）だけで二千四百人の小学生が参加しました。極端に言うとう勝者以外は「負けました」を言うために来るのです。保護者を含めると五千人以上になります。

そういう中、将棋の教育的効果に対する関心も高まっています。私は昨年、『将棋をやっている子供は、なぜ「伸びしろ」が大きいのか？』

（講談社）という本を書きましたが、なぜ今、教育に「将棋」なのかをお話したいと思います。

将棋で大切なことの一つは、「三つの礼」があることです。

最初、子供たちに「将棋って何だと思う？」と語りかけます。「勝ち負けを決める」「駒で戦う」と子供たちは言ってきました。「そうだね。でも将棋というのはこういうことなんだよ」と、黒板に「お願いします」と書いたフリップを貼って話を始めます。

「将棋はまず駒を並べて、相手と向き合って、『お願いします』と礼をするんだよ」と指導します。

「お願いします」の後、対局中は

無言です。駒の音だけが響くのです。「へえー、しゃべらないんだ」「でもね、駒たちがしゃべっているんだよ」と話します。

「負けました」と 相手に宣言する

そして「次に言う言葉は何かかな？」と問いかけて、また子供たちに考えさせます。「負けました」という言葉だよ。将棋はこれが一番大事なんだ」と話すわけです。

将棋は「負けました」と言うところから始まるとも言えます。「負けました」と口に出して言うことは、自分が負けたことを相手に宣言す

ることです。そのようなゲームは他にないのでないでしょうか。その上で「感想戦」という、ゲームを巻き戻して今戦った相手と「こうすれば勝ってたよ」と二人で振り返るわけです。終わった瞬間に相手とも仲間になる。自分を振り返るビデオを巻き戻せるということでは、教育として大切なことです。負けを認めて前に進む勇氣を持つことでもあるのですから。

プロ棋士は何時間もかけて対局して、夜中から感想戦を始めて、二

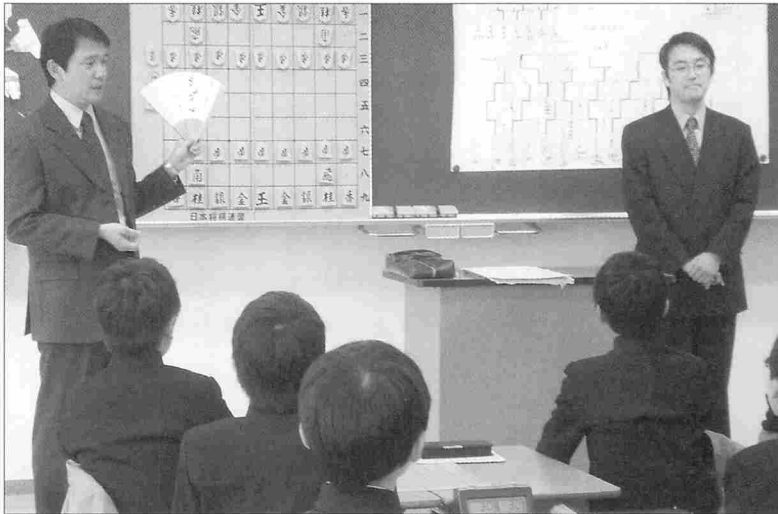
安次 嶺隆 幸

あじみね・たかゆき

小学校教諭

1962年埼玉県生まれ。明星大学人文学部卒。1984年に東京・私立暁星小学校教諭着任。日本将棋連盟学校教育アドバイザー。私学教育研究会(あいすの会)主宰。将棋ベンクラブ会員。著書に「私学の伝統 品格のある子どもを育てる格言集」「子どもが激変する将棋メソッド」(以上、明治図書)「将棋をやっている子供は、なぜ「伸びしろ」が大きいのか？」(講談社)。3月新刊「低学年指導の極意！一瞬で授業に引き込むプロの技」(学陽書房)





将棋クラブに羽生善治名人を迎えて

人で駒をしまつて、最後に「ありがとうございました」「ございました」と挨拶します。これが三つの礼、「お願いします」「負けました」「ありがとうございました」です。将棋は礼に始まり礼に終わるのです。私は日本将棋連盟の学校教育アドバイザーを務

めています。この学校に行つても、まず「三つの礼」を教えて下さいとお願いしています。そこから心が育つていくと思うのです。学習指導要領では「日本の伝統文化の奨励」も謳われています。この点では、歌舞伎や華道、茶道も

素晴らしいのですが、将棋は教室ですぐにできるものです。まず「礼に始まり礼に終わる」ところから教えるのです。伝統文化に込められた精神に触れることができる。ですから将棋は教材になると思うのです。

保護者は「無言の観戦者」

次に、「自分で考え、自分で決断すること」を学びます。将棋は誰の手助けもなく、全て自己責任の世界です。誰のせいにもできません。

J-Tの将棋大会の会場

で印象的だったのが、保護者の姿でした。保護者は「無言の観戦者」です。例えば、サッカーの試合では親が「○○ちゃん、がんばつて」と大声で応援するでしょう。時には怒鳴り声をあげる親までいます。

しかし将棋は無言です。子供たちが対局中、周囲にはラインが引いてあつて、親の中には入れません。遠巻きに黙つて見ている。「無言の声援」というのでしょうか、それによつて、子供の集中力など今まで見えていなかったことも見えてくる。まさに「見守る」ことによつて子供の新しい面に気づくわけです。

中には退屈そうに携帯電話をいじつていたり、会場から出てしまふ保護者も確かにいます。実にもつたいないと思います。子供たちの真剣さを見てほしいと思いますね。子供たちの真剣さと、見守る大人たちの姿。その雰囲気は素晴らしいものです。

それから、将棋の教育的効果として、「相手の考えを知る」ということがあります。

負けた子の涙を拭った下級生

私が指導している将棋クラブで、ある時、小学六年生の子が五年生に負けました。その子は悔しくて涙が出てきて、「負けました」とはなかなか言えませんでした。そのうちに、その子の涙が盤の上に落ちたのです。すると傍で見ていた子が、その涙をそつと拭きとつてあげたのです。私も驚きました。拭き取った子は、やんちゃでいつもは騒いでいることが多い子です。将棋クラブのときは集中してやりなさいと指導しているのですが、投了間近で涙ぐんでいる六年生の異変を察したのですね。

六年生の子が目から涙をこぼしながら「負けました」と言うと、周りの子供たちが寄つてきて「こうやれば勝つたよね」と、その子を励ましたのです。負けた子の悔しさが分かり、思いやる心、察する力を見せてくれました。その光景を見た時、私は「日本の教育はま

だ捨てたものではない」と感じました。

敏感に察したから、自分で行動できる。これはいわば相手と自分の心の対話です。羽生善治名人に言わせると、一局対戦すると、だいたいその人の性格や考え方が分かるそうです。相手と向き合っている、実は自分自身と向き合っているということですね。そういうことが大切なのではないかと思っています。

自分の気持ちを「折りたたむ」

もう一つ大切なことは「気持ちを折りたたむ」ということです。人間には、勝ちたい、負けたくない、悔しいとか、いろいろな気持ちがあります。そういう内面の葛藤を整理して折りたたむのです。

「負けました」と言うのは、すごく嫌なことです。ある意味で相手を上回っていないと、「あなたに負けました」とは言えません。悔しさを泣きたいのを我慢して「負け

ました」と言って、どこが悪かったのかを相手に教えてもらう。相手は勝ったのですから、自分になにもを持っていない。相手も「僕も苦しかったよ。こうすれば君が勝ったよ」「ああ、そうなのか。僕もこんな気持ちだったんだよ」と振り返ることができる。ていねいに折り紙を折るように心にしまっていく。この「丁寧に気持ちを折りたたむこと」が感想戦です。次の対局で同じ状況になった時、その折り紙を出せば、折り鶴になっているかもしれない。しかし心の中にぐちゃぐちゃに入れていても、ごみにしかならないのです。プロ棋士は毎回、負けても感想戦で折りたたんで心に入れることで向上しているわけです。それが今の羽生名人を育てたとと言えるのです。

これは私たち教師も同じです。一日を振り返って、その日の指導の失敗をよく振り返って、気持ちを折りたたんで次の授業に臨むと、子供も変わります。

また、将棋をすることで、自分

の考えを積み重ねていく地道な習慣が身に付くことや、相手の指した手の意味を考えることで「精神的に成長する」実体験ができることも、将棋の教育的意義だと思います。

一人をほめることで周りの子にも影響

私は将棋指導に行く時は手製のシールを持っていくのですが、例えば子供がある手を指したとします。「あっ、この手はすごいね。素晴らしい手だね」と言って、そのシールをあげます。そうやってほめています。すると周りの子も真似をします。

「今日は負けたけど、○○ちゃんはずよかったよね」とほめたことが実は周りの子にも影響を与えているわけです。これが学校教育の一番のすごさだと思います。人から学ぶ。伝え合う力ですね。ただ子供にやらせればいいというのではなく、教員が絶えず子供の表情を見ている。どこにスポットを当

てるか。それを逃すと、将棋を一时间やっても、何か分からないけれども楽しかったということが終わってしまいます。

無言の空気の中で自分を振り返る

また、将棋を通して無言の空気の中で自分を振り返ることを実体験させます。子供たちは常に音がある世界にいます。無言の世界というのはすごいなと実感します。実感することによって、授業中に誰かが騒いでいたら子供たちはうるさいと思います。「静かにして」と。子供からそのような言葉が出たら、しめたものです。

子供たちは「将棋はおもしろいよ」と言います。将棋を通して自分と向き合う面白さを感じているのではないかと思います。目の前の相手に勝つことがうれしいのではなく、自分の弱さに打ち克ち、弱さを克服した充実感から喜びが生まれるのだということを学んでいると私は確信しています。E

子育ては*絵本で*大丈夫

*7



浜島代志子
劇団天童/
天童芸術学校代表

あげればあげるほど嬉しくなっ
たにじうお…愛は惜しみなく
与える… 「にじいろのさかな」



「にじいろのさかな」マーカス・フィスター作/谷川俊太郎訳 (講談社)

「にじいろのさかな」(マーカス・フィスター作 谷川俊太郎訳 講談社刊)という絵本をご存じですか。ぴかぴか光るにじうおのお話です。



体中ぴかぴかろうこを持っていてのに誰にも一枚もあげない、仲間が遊ぼうと言ってもフンとそっぽ向く、どうしようもないうぬぼれさかな。

当たり前前のことですが誰も遊んでくれなくなつた。困つたにじうお、珊瑚礁の向こうのたこばあさんのところへ行つた。

「ぴかぴかろうこをあげなさい。」それが幸せになる元だとたこばあさんは言うとすつと消えた。にじうおは迷つた。

お話を聞いているこども達もどうしようかと考える、顔を見合わせる。幼児でも小学生でも大人も反応は同じ。

ここで、大事なことは待つことです。何を待つ? 聞き手の心が動いているのにずんずん読み進めてしまつては良い心情教育が出来ないからです。

対話式読み聞かせが力を発揮するのはこういう時です。

にじうおがどうしたか、もう、おわかりでしょう。一番大事なものを人にあげるってなかなか出来ないことですね。



幸せの原点が何かをリクツなく教えてくれます。小学校の道徳教育に絵本を導入すると大きな効果があること請け合います。

「ミロとまほうのいし」「ミロとしましまねずみ」は、幸せになる終わり方と不幸になる終わり方の二とおりあります。ミュージカルレッスンの終わりに読んであげたら、幼児、小学生、中高校生、保護者までしーんとしていました。もちろん、悲しい終わり方です。思い出たることがあるからでしょうね。

良い絵本から絶版になるオソロシイ時代だからこそ、生きる糧となる良い絵本を声の力でしっかり伝えてゆきましよう。E

浜島さんは語り・読み聞かせの講演も行って
いますので、同事務所までお問い合わせくだ
さい。電話&ファックス0477-703-7
9311 / URL <http://gekantendou.com>

往時茫々 —— ヒューマニズムの限界

人間社会を見た時、ヒューマニズムの精神の限界も見えてくる。北海道の歴史からひもといてみたい。

夢と気骨をもった 開拓者たち

往時茫々―好きな言葉の一つである。

いつの日にか私が出会った忘れぬ人びとを、この表題で書いてみたいと思っている。

私は北海道に生まれ、少年時代をそこに過ごした。季節を急ぐ北国の山河に思いを馳せると、少年の日に出会った人びとがクローズアップされてくる。遠い記憶である。あるいは人づてに聞いたことなのかもしれない。

北海道を開拓した、いわゆる開

拓者の多くは名もなく草深い開拓地のかげに散っていった。とくに、夢と気骨をもって開拓の鋤を振った人々には、成功者というものがほとんどない。たとえば、開拓した土地は後から移住した土族たちに与え、自分はさらに奥深く開拓地を求め、ついに窮乏の果てに割腹して果てた旧伊予藩の家老があった。

金をもうけにきた人びとの大体が、荒々しく北海道を食い荒らして通りすぎた。あるいは、冷酷無残な成功者は東京辺りに引き揚げていった。ただ、開拓に夢を抱いた人びとが、じつと凍土にかじりついて北海道を開拓したのである。

なかには、国に帰れない前歴の人もあった。ある温泉をひらいた人が、死ぬときにいった言葉は「おれの墓はとつくの昔に飯盛山にあるのだ」と。(注・戊辰戦争に、会津藩士の子弟が組織した少年決死隊「白虎隊」は、飯盛山で全員自刃を決行した)

これら夢と気骨をもった人びとは、とくに開拓地の中心をなした人びとは、東北諸藩などの知的水準の高い士族であり、新しいものを進んで受け入れる用意があった。たとえば、たった二軒の人家しかなかった茫漠たる石狩原野に、将来の中心都市札幌が設計され、幾何学的な大道路の網のなかに、こ

の人たちの夢が植えつけられていった(明治二年)。

ことに、ピューリタンの精神は、多くのすぐれた人びとの生涯を決定した。過去に歴史はなかった。処女地にいとむ人びとの、労苦に満ちた日々が歴史をつくることだった。それは古い起源をもつ日本列島社会が、はじめて味わったかけがえない体験であり、二度と繰り返されることのない歴史の瞬間だった。

ヒューマニズムの敗北

だが、その夢と気骨にもかかわ



河端春雄
かわばた・はるお
哲学者

らず、内地の伝統と過去とを捨てきれぬ心情と未知にむかっただの探求心の欠如が、「人間的な、あまりに人間的な」この人びとを、決定的に敗北者の軌跡をたどらせることになる。いわば、ヒューマニストの敗北の軌跡であった。

ヒューマニズムとは、ひろく人間生活に対して深い関心をもつこと、他の何ものにもまして人間的なものを愛惜することである。しばしば引用される紀元前二世紀ごろのローマの詩人ラレンティウスの言葉、「私は人間だ。だから人間に関することは何一つ私に無縁だとは思われない」が、ヒューマニズムの精神を最も鮮やかに示すといわれるのも、それによるのである。

しかし、現実の人間世界はありのままに肯定されるには、あまりにも多くの悪を、欠陥を、不調和をもっている。「非人間的なもの」をすらもっているといえよう。事実、この世界において、いかに多くの人びとが、人間にふさわしい生活を拒まれていることか。いか



に多くの人びとが、たんなる物件に、道具に、商品に転化されていることか。

したがって、「人間の立場」としてのヒューマニズムは、同感としてのヒューマニズムから区別されなければならぬ。それは一時的な、その場限りのヒューマニズムであり、行動への可能性をとまわらない。いわば、センチメンタル・ヒューマニズムである。とくに、日

本人一般に多く見られるパターンで、浪曲とか演歌などが愛好されるメンタル・マップである。また、態度としてのヒューマニズムからも区別されなければならない。というのは、ヒューマニズムは態度であるといわれる。それは知識とか思想であるよりも、人間尊重の態度に力点がおかれる。

「思想」「行動」に成長すべき

しかし、ヒューマニズムがこのような「同感」「態度」だけでは、反ヒューマニズムとの対決を明らかにしていない。ヒューマニズムが継続する人間本位の精神を抱きながら、たとえばファシズムに対してあまりに無力であったのは、それによるのである。人間本位の精神を踏まえながら、人間の歴史的状况、歴史的運命、歴史的使命についての客観的認識が欠

如しているのである。したがって、

現代の巧妙なマルクシズムとかマス・コミの暴力に押し流され、そのために挫折感におそわれることを免れない。

現代のヒューマニズムは、どうしても思想としてのヒューマニズムに成長しなければならぬ。たんなる知識としての思想ではなく、行動への可能性を含む思想としてのヒューマニズムが成長しなければならぬ。R・ニーバーに従えば、「心の背文を伸び伸びさせて自らの実存を眺め、そして考えることである」と。そのとき、人間は自己の内のみならず、自己自身を超えたところに自己の中心が存することに気づく。――「すべては汝のものである。しかし汝は神のものである」(マタイ伝)。

ラインホルド・ニーバー
(Reinhold Niebuhr)

1892年6月21日～1971年6月1日。20世紀を代表するアメリカのプロテスタント神学者、牧師、政治学者。「ニーバーの祈り」(「平安の祈り」とも言われる)で知られる。

チェーホフ (1860 ~ 1904)

肺結核を隠し続けた大劇作家

医師でもあった劇作家は、結核の身をおして人々の救いに走り続けた。

ジャーナリスト 池永達夫

医師でありながら 病気を認めず

シエークスピアと並ぶ二大劇作家チェーホフ。英国人のシエークスピアがダイナミックな歴史の大道を歩いた人間を描いたとすれば、ロシア人のチェーホフはそこら辺の道を歩いていそうな等身大の人間を書き込んでいった。

短編小説の能手として文壇にデビューしたチェーホフは、ドストエフスキーやトルストイなどのような自分の思想や哲学の押し出しの強さは皆無だった。その意味では、外国人にもとつきやすい作風となっている。

ただそうした距離感は意識的ではなく、チェーホフの性格からき

ている模様だ。

チェーホフは、結核だったのにも関わらず、自分ではそのことを認めたらなかった。しかも、チェーホフは医師だった。病状を的確に判断して病名を確認することが治療の第一歩となる医師としては失格なのだが、それは「医者の不養生」とか「紺屋の白袴」といった類のものではなかった。

最初の咯血は一八八四年、モスクワ大学医学部を卒業したその年に起きた。医師になったばかりのチェーホフは、肺結核にかかっていることを認めようとしなかったばかりか、診断そのものを拒否しさえした。

その後も何度か咯血しているが、色々な言い訳をして、これは結核が理由ではないと言い張った。そして結核が確定しても友人はもちろん、近親者にもひた隠しに隠し、そのことが話題になると注意をそらすといったも試みるのだった。

チェーホフは三男だったが、長男、次男は家を放棄したため、両親や兄弟の世話をする家父長的な

役割を担っていた。そのため、大黒柱が病気などに打ち負かされるわけにはいかなかった自負心が、現実の病を受け止めることさえ拒否した理由だったのかもしれない。

自分の力で人々を 救いたい

なおチェーホフが職業として医師を選択したのは、文学にあこがれながらも、現実主義者であった可能性が高い。ただ医者ならば収入は保証されるという打算はあったかもしれないが、単なる拝金主義者ではなく自分の力で人々を救いたいというモラリストであったことは間違いない。

それは、ヤルタで結核治療に専念する前、モスクワ近郊のメリホボに土地と屋敷を購入し住んでいたころ、チェーホフは母屋にも戯曲「カモメ」を書いた離れにも診療施設を置き、小説を書く合間を縫って農民たちを診ていた時期があったことから見てもはっきりしている。用事ででかけたモスクワ

病を克服した偉人たち



アントン・チェーホフ
= dpa/PANA

そうした母親の影響を受け、チェーホフは幼少時代から、動物に對する残酷な仕打ちに耐えられなかったという。荷馬車の御者が馬を殴るのを見ては泣き、人間が虐待されるのを見ると、神経質に身を震わせた。

から帰ると、離れに赤い旗をあげて「帰ってきたから、診療できるよ」と近所に知らせていた。

自分以外に医者はいないメリホ

ポの住民の健康を預かる者として、村々の医療を担う業務を自分の聖業としたのだ。それだけではない。

この村でたった一人の医者として、コレラの予防に走り回り、結核の身を押し、小学校を建て、図書館の仕事にさえも携わっている。

こうした心情は、母親譲りだった。しばしば子どもにも妻にも暴力を振るったチェーホフの父親ながら、子どものためには黙ってわが身を犠牲にした敬虔で優しい母をチェーホフは心から愛していた。

チェーホフは自分でも「才能は父親から、心情は母から受け継いだ」と述懐している。

不毛の地を植樹で「花咲く庭園に」

なお才能は父親から相続したとされるチェーホフの作品には、登場人物を利用して自分を語り主張

するような腹話術的な手法を用いる場面がほとんどない。ただ例外的なのは「ワーニャ伯父さん」だ。

そこには、森の生態系の崩壊を憂慮する医師が登場し、エコロジストのチェーホフを彷彿させる。

チェーホフが生まれたウクライ

ナは、豊かな土壌の黒土に象徴される豊饒の土地だ。とりわけ長い沈黙の冬に代わって訪れる春のさわめきと緑は、冬の期間、陰鬱を強いられるチェーホフの心にも蘇りの命を与えた。

自然愛好者のチェーホフは、しばしば釣り竿を手にし、他人の目から隠れて深い夢想にふけるために、釣りのふりをしながら川辺に座っているのが好きだった。

死の床となったヤルタでさえ、チェーホフは石ころだらけの不毛の周辺の土地に植樹を怠らず、文明と美の緑地帯に変えようとした。チェーホフは手紙に「やがて三百年、四百年後には、土地全体が花咲く庭園に変わっているだろう」と書いている。

チェーホフは嗜血しながらも、一本一本、木を植えて緑を増やす努力を怠らなかつた。

そうした自然を愛した魂を癒すように、メリホボ村にあるチェーホフ博物館は、ライラックの花畑に埋もれている。目

「氣」の日本人

立川昭二著／綜合社／
一三六五円(税込)



「氣」で読み解く
日本人の心性

著者は病氣や医療に関する著述で定評がある。『からだことば』に続いて、今回は「氣」を取り上げた「きことば」でユニークな日本人論を著した。

外国人が日本語を学ぶとき、苦労するのは「氣」のつく言葉の多様な使い方だという。本書を読むと、改めて「氣」の言葉の多さと意味合いの広さに驚かされる。本書で著者は「氣」という言葉を心、体、社会の三つの関わりから読み解き、日本人の心性の奥底に迫る。

氣はこころと言うが、微妙に違う両者を日本人は無意識的に使い

分けていると著者はいう。「氣」という言葉は心の内面を表したり、その場の雰囲気を表したり、身体的な感覚を表したり、日本人の生活文化と結びつき、多様な表情をみせる。

体との関係では「氣」＝「息」(呼吸)という考え方があり、古代には「氣」を「いき」と訓読していたというから面白い。心身一体的な考え方がみとれる。またよく使う「氣がする」という言葉。曖昧語の代表格で、断定的な物言いを避けたがる日本人のメンタリティをよく表しているという。

「氣」が分かれば日本人が分かる。また「氣」の隠れた力に気づけば、もつとよく生きられる。そんなメッセージも伝わってくる。何よりも本書の面白さは、ひとつの「氣」という言葉から、広がりのある日本人論に仕上げたことだ。著者の歴史・文化理解の奥深さを感じる一冊だ。

■読者の声

秀逸だった西川氏の主張

元大学教授 (東京都)

2月号の西川吉光先生のインタビュー(『真の人材教育』のビジョンを提案する)に深い感銘を受けました。現代の教育の欠陥を分かりやすく語られ、秀逸の内容です。初等教育の「一休み教育(ゆとり教育)」は駄目、というのは気持ちのよい断言です。今ののんびりした日本人に読ませたい。「日本は海洋国家に徹するべし」という主張も全く同感です。

パスツールの記事に勇気もらう

小学校教諭 (岩手県)

1月号の「病を克服した偉人たち〜レイ・パスツール 半身不随にも耐え抜いた『近代細菌学の開祖』」を読み、勇気ももらいました。私も子どもたちのために、情熱を込めて実践していきます。

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大なるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだと言うこともできるでしょう。

■表紙写真 ロシア正教の教会とロシアの大地 (ウラジミール市)

撮影・大塚克己

「絆」が日本を再生する

日本の将来に対する不安が高まっています。政治の混迷、長引く不況、人口の減少など、さまざまな要因が指摘されますが、根本的には社会と自分がどこかで繋がっていないと実感できない人が多くなっているのが、社会の閉塞状況を生んでいるのではないのでしょうか。つまり「絆の断絶」です。不況による経済的な困窮などが孤立感を煽

り、自殺や児童虐待、孤独死を増やしているのです。したがって、これからの社会の安定と発展を考える時、最重要課題となるのが人と人との絆の再生です。歴史に見ても、家庭や地域、そして企業などあらゆる場面で和を大切に生み出されてきた。日本の発展の源泉でした。社会の不安感を払拭しなければならぬ状況に陥った現

在、賢明な政治家からまず日本の歴史や文化・伝統に学ぶでしょう。たとえば、増え続ける児童虐待。地域の絆を再生し、子育て家庭を地域で支えるシステムを復活させることが求められています。そこでは、ボランティア活動が重要な役割を担うことができるでしょう。

「子育ての社会化」を進めるとして、子ども手当を支給していますが、バラマキ政策に終わっているのが現実です。それよりも、家庭や地域の絆を強める政策に、予算を投入すべきではないでしょうか。夫婦別姓は、世論を二分するテーマです。しかし、昨年春発表された国立社会保障・人口問題研究所の「全国家庭動向調査」によると、これまで増え続けていた夫婦別姓の賛成派がはじめて減少に転じた。絆の断絶によってさまざまな社会問題が顕在化することで、世論は伝統的な家族観に回帰していると言えます。人と人の絆が日本を再生させることに、気づいた人が増えているのです。政治にも賢明な選択を望みます。

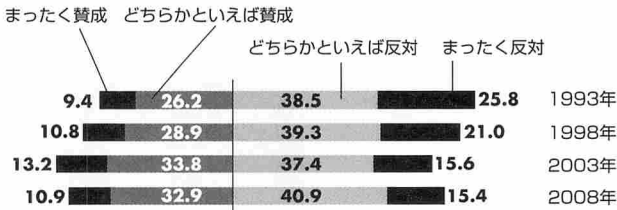
ところが、現在の政府は社会の基本単位を「家族」ではなく「個人」と考えて、家族や地域をバラバラにしない政策に力を入れようとしています。その良い例は、昨年末に閣議決定した第三次男女共同参画基本計画です。その中で選択的夫婦別姓の導入に向けた民法改正について「検討を進める」と明記しました。夫婦や家族の絆よりも個人を重視する姿勢がはつきり表れています。

「子育ての社会化」を進めるとして、子ども手当を支給していますが、バラマキ政策に終わっているのが現実です。それよりも、家庭や地域の絆を強める政策に、予算を投入すべきではないでしょうか。夫婦別姓は、世論を二分するテーマです。しかし、昨年春発表された国立社会保障・人口問題研究所の「全国家庭動向調査」によると、これまで増え続けていた夫婦別姓の賛成派がはじめて減少に転じた。絆の断絶によってさまざまな社会問題が顕在化することで、世論は伝統的な家族観に回帰していると言えます。人と人の絆が日本を再生させることに、気づいた人が増えているのです。政治にも賢明な選択を望みます。



夫、妻とも別姓であっても良いか？

(国立社会保障・人口問題研究所)



毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらに政府は11月の第3日曜日を「家族の日」と、その前後の週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を確認できれば、それは家族みんなの素直なプレゼントになるでしょう。

家庭は愛の学校

●皆様の御意見や気づいたことをご寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。

The Association for the Promotion of True Families
〒160-0002 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F
電話03(6645)7760 FAX03(6645)7761 <http://www.apotf.gr.jp>



第3種郵便物認可
2011年3月10日発行
毎月10日発行・通巻250号

井口喜源治、私塾で理想の人格教育／長野

歴史と
伝統の
探訪



(左上より時計回りに) 井口喜源治像、生家跡にある井口喜源治義塾跡を示す碑文



井口喜源治（一八七〇～一九三八）は、キリスト教精神に基づく人格教育に務めた教育者だ。

長野県出身の井口は中学時代、英語教師だった宣教師によりキリスト教の教えを受ける。大学で教育の道に興味を持ち、高等小学校教師となって故郷の東穂高に戻る。

井口は東穂高禁酒会に入り、飲酒の害を説いて回った。また、村に振興策として芸妓置屋の設置が持ち上がった時には反対運動を行ったが、設置賛成派による井口排斥が起る。井口がキリスト教徒だったことで嫌がらせのような行為もあった。結局、井口は公教育の現場を去ることになる。

井口は、このままでは理想の教育はできないと、私塾「研成義塾」を設立する。二十七歳の時だった。最初の生徒は十二人。教師は井口一人だった。地域には、井口の

人格に引かれて子供を研成義塾へ入塾させた者もいたという。校舎は地区の集会所からスタートした。塾の設立趣意書では、①家庭的に行う、②教師は学生の生涯の相談相手になり感化が永遠に続くようにする、③生徒の天賦の特性を発達させる、④宗派の如何に干渉しない、⑤新旧思想の調和を謳った。生徒数は最盛期でも三十〜四十名で、経営は苦しかったが、公的補助金などはほとんど受けなかった。

塾は井口が病で倒れるまで三十七数年にわたって続き、七百人近くの人材を輩出した。井口が敬愛していた内村鑑三は、井口の教育をベストロッチ、中江藤樹と並ぶ理想の教育だと評価。後世に善き人格本位の教育が生まれる土台になるだろうとたたえている。

2011
3
no.250

En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)
代表 河部利夫

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授

定価 400円
[1年間5000円(送料込み)]
郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。